

顎骨壊死・骨髄炎は顎の骨が腐る病気です。最近、ビスフォスフォネートという薬の副作用として発症するケースが増えています。ビスフォスフォネートは、破骨細胞(骨を食べる細胞)の働きを抑えることによって骨粗鬆症の患者さんの骨折を防止したり、骨に転移したがんの進行を遅らせたりします。がんの



徳島大病院 歯科口腔外科 宮本 洋二 教授

顎骨壊死・骨髄炎は顎の骨が腐る病気です。最近、ビスフォスフォネートという薬の副作用として発症するケースが増えています。ビスフォスフォネートは、破骨細胞(骨を食べる細胞)の働きを抑えることによって骨粗鬆症の患者さんの骨折を防止したり、骨に転移したがんの進行を遅らせたりします。がんの

薬の副作用で発症 顎骨壊死・骨髄炎

本疾患に対する治療法もまだ確立されていません。一般的には抗菌薬の投与と局所洗浄、含嗽(うがい)などの保存的治療が行われますが、難治性です。私どもの診療科では腐骨が分離した症例などに手術治療を行うことで良好な結果を得ています。

この薬は骨粗鬆症や骨転移の進行抑制に非常に有効ですので、決して自己判断で中止しないでください。特にがんの患者さんの場合は、医師の指示に従って使われることを強くお勧めします。注意して頂きたいことが幾つかあります。まず、歯科治療時にはビスフォスフォネートを使用していることを歯科医に必ず告げてください。これからこのお薬を使

中では骨に転移しやすい乳がんや前立腺がん、肺がんの患者さんによく使われます。非常に優れた薬ですが、まれにビスフォスフォネート製剤関連顎骨壊死・顎骨骨髄炎が起こります。

症状は、顎の痛みと腫れ、そして排膿です。進行すると、腐った骨(腐骨)が口の中に露出します。この過程で、歯のへらつきや悪臭が生じます。時にこれらの症状に先行して下口唇にしびれが出現することもあります。

ビスフォスフォネート製剤関連顎骨壊死は2003年に報告された新しい病気です。その発生機序や頻度、治療法は十分に解

われようとしている場合は、先にかかりつけ歯科を受診して抜歯などの処置を予め済ませてください。すでにビスフォスフォネートを使われている場合は口の中を清潔に保つこと、口腔ケアが大切です。歯科医院での定期的な口腔内管理と日々の歯磨きを含めた口腔清掃を行うことによって発症を抑えられます。